

# 弘法さんかわら版

発行編集部

大塚耕平事務所

☎052-757-1955

Kouhei@oh-kouhei.org

今年六月から猛暑でしたが、いよいよ夏本番。くれぐれもご自愛ください。

「尾張名古屋・歴史街道を行く―杜寺・城郭・尾張藩幕末史―」をお送りしている今年からかわら版。今月は**斯波氏と織田氏**についてです。

## ★尾張国の鎌倉街道

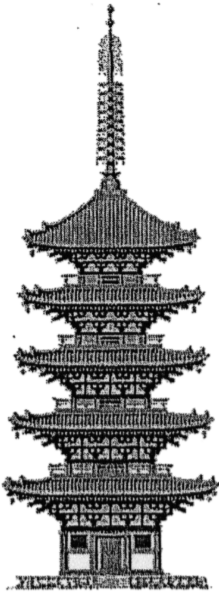
尾張国の古代は**尾張氏**が司り、中世は**斯波氏**が支配します。やがて織田氏が台頭し、近世は**尾張徳川家**が治めます。

織田信長の生涯はよく知られていますが、中世斯波氏と信長以前の織田氏の歴史は複雑です。尾張の中世史をご紹介します。

平安時代末期、**熱田大宮司**を務めていたのは**藤原季範(すえのり)**です。

季範は父が目代として赴任した尾張国で生まれました。母は尾張氏であったため、季範は尾張氏一族として熱田神宮大宮司を務めることになります。

この頃、都では源平の争いが激化



し、その対立が全国に波及しつつありました。武士が古代東海道や東山道で東西を往来する頻度が増し、とりわけ東国武士とつながる源氏は尾張国を頻繁に訪れていました。

やがて**源義朝**が季範の娘、**由良御前**を娶り、ふたりの間に生まれたのが**源頼朝**です。

また、季範の養女(孫娘)は**足利義康(足利氏祖)**に嫁ぎ、**熱田大宮司**家は足利氏にも血脈をつなぎました。義康から数えて八代目が室町幕府を開く**足利尊氏**です。

頼朝が鎌倉幕府を開くと、鎌倉と京の往還道として、古代東海道と宮宿から東山道に向かう経路が東西交通の要路となりました。尾張国の**鎌倉街道**です。

## ★尾張守護・斯波氏

鎌倉時代から室町時代にかけて**氏性制度**に基づく朝廷支配は形骸化し、朝廷が任命する**国司**は力を失い、武士が各地の**守護大名**として台頭します。

室町幕府の足利將軍家とつながりの深い有力氏族のひとつが**斯波氏**です。斯波氏は鎌倉時代に足利宗家から分家したことに始まります。氏名(うじな)は鎌倉時代に陸奥国斯波郡を所領としたことに由来します。十四世紀、**後醍醐天皇**の倒幕運動

に宗家**足利尊氏**が与すると、当主**斯波高経**がこれに従いました。建武新政を始めた後醍醐天皇と尊氏が袂を分けると、高経はやはり尊氏を支えて室町幕府の有力者となります。

その後、高経の四男**義将**が**執事**となり、高経が見守ります。執事は足利宗家の家政機関として家領や従者を管理する立場を超え、幕政に参与する有力守護大名の長を意味する**管領**に形を変えます。高経は管領の父として幕府の主導権を握りました。

高経没後、義将は三代將軍**義満**、四代將軍**義持**を支え、約三十年間にわたって幕府宿老として大きな影響力を持ちました。

斯波氏は畠山氏、細川氏とともに**三管領家**となり、しかも筆頭の家柄として重んじられます。

義将の子**義重**は、一三九九(応永六)年の応永の乱における功により**尾張守護職**に、さらに後には遠江守護職に任じられ、父から継いだ本領越前を合わせた三ヶ国守護職を務めます。以後、戦国期を通して約百五十年間、尾張国は斯波氏の領国となりました。

斯波氏は子孫が代々**尾張守**に叙任されたことから**足利尾張家**と呼ばれるようになります。

## ★織田氏の登場

義重は、越前における被官である**織田氏**、甲斐氏、二宮氏らに尾張赴任を命じ、莊園・公領に給人として配置します。

**一四〇五(応永十二)年**、義重は尾張守護所であった**下津城**の別郭として**清洲城**を築城しました。一四二九(永享元)年、六代將軍

に足利義教が就くと、強権的な政治を行う義教と宥和的な政策を目指す義重の子**義淳**は相容れません。一四三二(永享四)年、義淳は管領を辞職し、翌年病没しました。

義淳を継いだ弟の**義郷**やその子**義健**も相次いで早逝し、その間に勢力を伸ばした細川氏や畠山氏に押され、斯波氏の権勢は大きく後退します。

細川氏が畿内を制し、畠山氏も畿内周辺に領地を有していたのに対し、斯波氏の領国は都から遠い尾張・越前・遠江に分散してしまいました。そのため、斯波氏の当主は都に住み、領国支配を守護代に任せます。

その結果、領国の実権は次第に越前守護代**朝倉氏**や尾張守護代**織田氏**等の重臣に握られます。

義健没後、**義敏**と**義廉**が家督を巡って争い、その際に將軍家・畠山氏の家督争いも絡み合い、**一四六七(応仁元)年**に**応仁の乱**が勃発。義廉は西軍の主力となりました。

一方東軍に属した義敏も越前に下って一円支配を目指しましたが、越前守護代の朝倉氏に実権を奪われました。

尾張では義敏の子孫が守護代織田氏に推戴され、斯波氏は形式的な守護として存続しました。遠江は駿河守護今川氏の支配下となり、斯波氏の越前・尾張・遠江における影響力は失われました。

## ★斯波氏と織田氏

尾張国史に斯波氏の家臣として登場した織田氏。その後、**伊勢守家(清洲織田氏)**と**大和守家(岩倉織田氏)**に分かれて勢力を争います。来月は**織田家攻防史**です。乞ご期待

